



東北大学



2016年10月17日

東北大学大学院医学系研究科
ユーシービージャパン株式会社
大塚製薬株式会社

役者による「てんかん発作ビデオ」が国際的利用拡大へ

- 専門医も驚く迫真の演技：医療従事者や社会の誤解を解くために -

【概要】

「てんかん発作＝全身けいれん」だけという誤解が、一般の方のみならず医療従事者の中にも存在します。このような正しくない印象を解消するために、東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野、中里 信和（なかさと のぶかず）教授らのグループは、2014年にプロの役者が演ずる9種類の発作ビデオを監修・作製しました。発作の多様性を理解してもらうべく、製作元のユーシービージャパン株式会社、大塚製薬株式会社が12000枚以上を作成。ビデオは医師などを中心に無料配布され、さまざまな啓発活動に利用されて大きな反響を呼んでいます。この反響の大きさから、2015年には英語版が作成され、2016年10月には北京語と台湾語への翻訳版が完成予定です。台湾語では初回時3000枚を作成予定であり、台湾のてんかん協会や、患者グループ、脳神経外科学会、神経内科学会、教育関係者への配布が計画されています。

【ポイント】

- てんかんは有病率1%で、国内患者数は100万を超えます。
- 正しい治療でてんかんの7割以上は発作が抑制されます。
- しかし、小さい発作に気づかず交通事故を起こしたり、てんかんへの誤解から失業するなどの社会問題が生じています。
- 今回のビデオでは、プロの役者が9種類の発作を演じており、患者の個人情報を保護できるので広く公開が可能です。
- 2014年の日本語版に加えて、2015年には英語字幕版も作成され、海外でも注目を集め始めました。2016年10月には北京語と台湾語への翻訳が完成予定です。

【詳細】

1. てんかんについて

てんかんは有病率1%で、国内患者数が100万を超える疾患です。てんかんの7割以上は正しい治療で発作を抑制できるにもかかわらず、一般の方のみならず医療従事者においても「てんかん発作＝全身けいれん」といった誤解が生じています。そのため、ご自身がてんかんであることに気付かずに小さい発作によって交通事故を起こしてしまったり、てんかんへの誤解から失業してしまうなどの社会問題が生じています。

2. 発作ビデオの概要

小児から成人に至るまでの代表的てんかん発作9種類が、複数の役者によって演じられ、それぞれ1～2分程度の長さで編集されています(別紙資料)。撮影に際しては、東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野の3名の専門医(中里信和教授、神一敬准教授、柿坂庸介講師)が2日間に渡って仙台市内にある撮影所のスタジオに入り、居間、食堂、寝室などの本格的なセットにて、患者役のプロの役者に対して、顔の表情、眼球の動き、四肢の動きなど細かな演技指導を行いました。

発作や脳波異常の開始と終了は、時間バーに赤線で表示され、てんかんの種類と発作に関する説明や現場に居合わせた方への発作への対処方法についての説明も、字幕で表示されています(写真)。説明文は専門用語を使いながらも平易に解説されており、医師だけでなく一般の方が呼んでも理解しやすい内容になっています。さらに、映像の対象が本物の患者ではないことと、専門のスタジオでプロのカメラマンによって撮影されているために映像の品質が高く、発作時の表情の細部に至るまで説明することが可能です。

製作元はユーシービージャパン株式会社と大塚製薬株式会社であり、2014年3月の完成以降、1万2000枚以上をCD版として作成し、医師などを中心に無料配布されました。

3. 発作ビデオの国内での活用例と反響

これまでに、てんかん発作ビデオは様々な機会に使用され、正しいてんかん像の普及に利用されています。

- **一般向けの講演会**

講師から「てんかん発作であれば特別な対応は必要なく、静かに安全確保をして見守るだけで良い」との説明を聞いてほとんどの方は安心されます。

- **学校の教員や、ハローワーク職員向けの講演**

学校の場合は生徒の行事や活動を中止させるべきか悩む場合が多く、職場の場合には雇用を打ち切るべきか悩む場合が多いとされていますが、てんかん発作そのものの危険はきわめて少なく、最小限の注意事項を守れば通常どおりの就学・就業が可能です。

- **診察中に患者や家族に**
患者本人は自分の発作の存在を否定しても、同席した家族が患者本人の発作とソックリであることを医師に伝える場合があり、正しい診断が下されるきっかけになります。
- **てんかんを診療する学外での医師向けの講演会**
発作の種類としては何となく知っていたがビデオでみて初めて理解した、という医師が少なくありません。正しい診断がついたために、患者は不安が消え、薬で発作も消失して元気に仕事を続けています。
- **てんかん専門医の取得を目指している神経系の専門医向けの講演会**
さまざまな発作ビデオを見せながら、脳波所見や画像所見と照らし合わせて正しい診断を導くために活用しています。
- **本学大学院生への講義**
「てんかんは全身けいれんが症状の全てだと思っていたが、無意識動作の発作があることを初めて知った」「てんかんにはけいれん以外にも、短時間意識を失ったり全身や手足が一瞬ピクツとしたりする等、様々な症状があることについて知ることができた」といった、正しいてんかんの教育に利用されています。

NHK や民放を含むテレビ放送に活用されている他、高校生への授業、オープンキャンパスでの講演、日本てんかん協会などの患者や家族の会での勉強会などに広く活用されています。

4. 発作ビデオの海外への活用拡大

2015年2月には英語版が完成しました。2016年10月には北京語と台湾語への翻訳版が完成予定です。台湾語では初回時3000枚を作成予定であり、台湾のてんかん協会や、患者グループ、脳神経外科学会、神経内科学会、教育関係者への配布が計画されています。

英語版については、2016年9月にチェコのプラハで開催された国際てんかん連盟の発作分類委員会で中里信和教授から紹介されると、大きく注目されました。また、2016年5月に香港で開催されたアジアオセアニアてんかん学会の会場で中里信和教授から参加者に紹介されると大きな反響を呼びました。アンケートでは、ビデオを観た聴衆の100%がこのビデオは有用だと答え、98%が使用許可が欲しいと回答しています。また、もしビデオの利用が可能になった場合には、82%がビデオの利用状況に関する調査に協力してもよいと回答しています（ユーシービージャパン株式会社による調査）。



【写真】 発作ビデオにおけるてんかん発作の例（発作 6）と説明文

【お問い合わせ先】

（研究に関すること）

東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野

教授 中里 信和（なかさと のぶかず）

電話番号：022-717-7343

Eメール：nkst@med.tohoku.ac.jp

（報道担当）

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

講師 稲田 仁（いなだ ひとし）

電話番号：022-717-7891

FAX 番号：022-717-8187

Eメール：pr-office@med.tohoku.ac.jp